

# 貧困の連鎖を断ち切るための無料塾の有効性



5年3組 周培文

## 研究の目的

子供の貧困は深刻な社会問題になっている。  
これを解決するためには、貧困の連鎖(右図)を断ち切る必要がある。  
無料塾は、教育格差の是正を通して、貧困の連鎖を止める活動をしている。



➡ 無料塾の有効性を検証し、持続可能性を高める方法を提案する。

## 調査1: 講師としての経験

新宿区にある「ステップアップ塾」で継続的にボランティア講師を務めて、以下の効果を確認した。

- 一対一の関係性(メンター・プログラム)による意欲向上
- 季節イベントや生徒参加のボランティアで豊富な経験ができる
- レク・給食の時間で他生徒や講師と交流する機会ができる



夏季合宿(左図)ステップアップ塾の様子(右図)  
写真掲載許可済

## 調査2: 無料塾への見学

三つの無料塾を見学し、塾長さんにインタビューした。  
それぞれの項目は、①塾の特徴②学力・成績の変化③意欲の変化である。

### 1 中野よもぎ塾

- ①明るい雰囲気、講師と生徒の距離が近い。
- ②成績はほとんど上昇傾向にある。
- ③生徒はイベントの計画を主体的に行ったり、自習日に勉強に来たりして、意欲的に参加している。

### 2 一粒の麦

- ①少人数の教室で、生徒が真剣に講師からの説明を聞く。
- ②生徒の学力は基本的に、現状維持か向上する。
- ③意欲は生徒によるが、塾に来ない生徒が出席するようになることもある。

### 3 八王子つばめ塾

- ①静かな教室で、生徒が数学と英語の勉強に一生懸命取り組む。
- ②学力は間違いなく上がるが、成績は相対的なもので、千差万別。
- ③様々な経歴を持つ講師との交流により、楽しく勉強ができる。

## 調査に対する考察

<学力・成績に対する効果>

- 生徒の学力が向上する場合が多数を占める。
- 全体的に、都立高校への合格率は平均よりも高い。

➡ 学力・成績の向上効果がある。

<精神面に関する効果>

- 様々なイベントを通して、多彩な経験ができる。
- 講師との交流や、メンター・プログラムによる効果。

➡ 学習意欲向上のきっかけになる。

## 今後の方向性

- ① 学力・成績の向上
- ② 精神面のサポート

において無料塾は**有効**だと判明した。

有効であるにも関わらず、絶対数が少ない  
無料塾を普及させるために、今後は

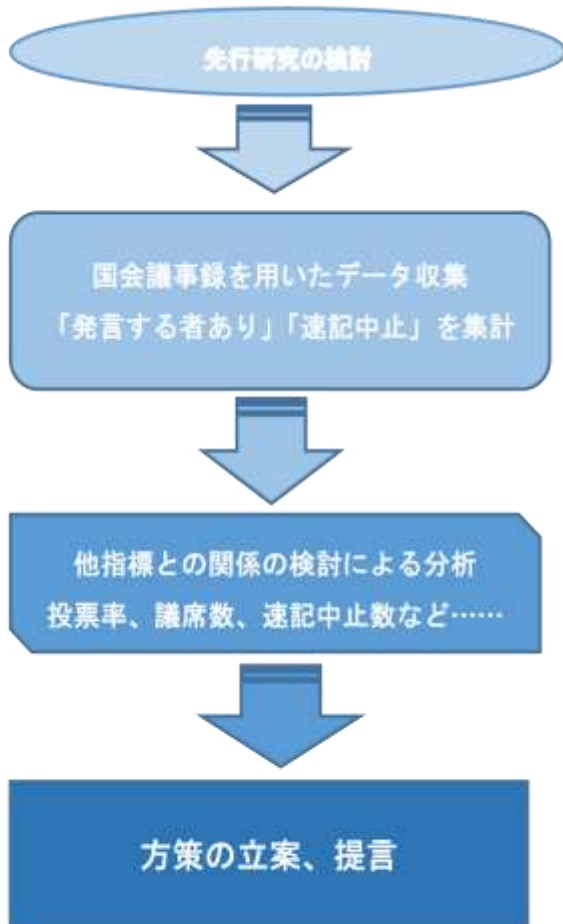
**無料塾の持続可能性**を検証する。

視点1) 無料塾の運営に政府は介入すべきか?

視点2) どのような団体がどのような形で無料塾を支援すべきか?

**研究の背景：**民主主義国家日本において、国会は言わずと知れた国権の最高機関であり、そこで行われる議論はこの国の行く末を決める重要なものである。しかし現状、本当に国会では建設的な議論が行われているだろうか。国会中継を見ると、政策課題を巡る議論は飛び交うやじに遮られ、議事が中断する事態も見受けられる。この状況では、建設的議論など望むべくもないだろう。本研究は、国会議論における不規則発言を分析し、最終的にはやじ抑制の方策を講じることで、国会議論の在り方の改善を目的とするものである。

**研究の方法：**



**昨年度研究より：**

分析①…野党議席数の大小と不規則発言数の相関

- ・野党議席が少なければ少ないほど、不規則発言数は大。  
⇒存在感の演出

分析②…投票率と不規則発言数の相関

- ・投票率が小さければ小さいほど、不規則発言数は大。  
⇒競争率の減少による議員の質の低下

**今年度研究・中間成果**

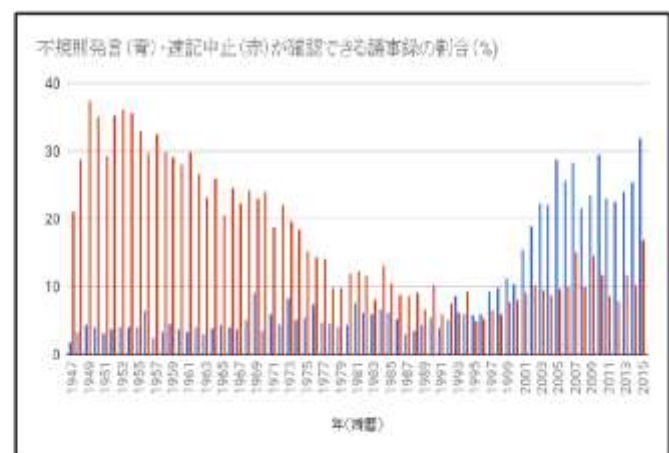


図 1. 不規則発言・速記中止の推移

**現在の仮説：**

- ・議長の積極性が不規則発言に影響しているなら、なぜ議長は消極的になるのか  
⇒議長は議員のうちから選ばれる  
…身内意識？  
…事前審査制度の導入によって党内の意見一致が図られる  
⇒不規則発言の制止は、党の意志に反する？

- ・国会会議録検索システム (<http://kokkai.ndl.go.jp/>) からやじ、速記中止の見られる議事録数を抽出した。
- ・不規則発言が確認された議事録が全体に占める割合(青)は、速記中止が行われた割合(赤)と対照的な形で推移している。  
⇒議長が積極的にやじを制し、議事の進行を行っていた初期と異なり、近年は速記中止の行われる割合が少なくなっている。  
⇒議長の積極性が、やじの数に影響している？

## ① 研究動機・目的

ボールペン組み立て作業  
60分 46円！？

(※水戸市にある就労支援センターの一例)

- 訓練という名で安い賃金で働かせてよいのか？
- 企業側の障がい者の悪用が始まってしまうのではないか？

### ○要約○

障がい者の就労は労働ではないため、低い工賃によって障がいを持った方が社会のためにもものづくりなどを行っている。

障がい者は安くものを作れるという観点から生まれる障がい者の利用を防ぐため、障がい者ものづくりをブランド化させ障がい者と社会を密接にすることが必要だ。

密接にすることで障がい者の社会的価値・社会的存在感が高まり、消費者行動が障がい者の就労を自然に支えることができる。このような就労のスタイルを確立するため研究を進めていく。

## ☆なぜブランド化なのか？(手法)

### ○プロ野球横浜DeNAの



- 横浜ブランドの定着
- イベント開催数UP
- 地域貢献・まちづくりプロジェクト
- 球場新構想

→ ブランド化することで新たな消費者やリピート消費者をつくることのできるため、障がい者就労支援の需要をさらに高める可能性ある。 → 就労支援環境の改善につながる

### ☆ブランド案☆

- ① 製造過程の 100% を障がい者・就労施設が行うことで 中間マージンをカット & 働きやすさの維持 → 適正価格を維持
- ② 企業のCSRと結びつける  
ヤマト運輸のように障がい者雇用拡大をCSRとしてやっている企業もあるため、小売りメーカーのCSRと結びつける。  
買える範囲を広げる → ブランド知名度拡大  
少しの消費者行動の違いで  
障がい者の利用を防ぎ障がい者の社会的価値を高めることができる

## ☆現場がかかえる課題とは？☆

### ○障がい者支援事業所 ひまわり(常陸太田市)

- ① 地域によっては交通の便・通勤のサービスが必要になる
- ② 精神障がいのある方は企業側が敬遠しがち

### ○葛飾区福祉部障害福祉課就労支援係

- ③ 能力のマッチングが必要
- ④ 特性の見極め

現場の声から分かった二分類

- ②～④ 障がい者に対する理解、能力に対する理解
- ① 障がい者の働きやすさ・社会貢献のためのサポート

### 結論・展望

障がい者就労改善のためには社会全体の障がい者の価値を高める必要がある。そのためには消費者行動調査や企業のCSRとの関連付けなど外部とのコミュニケーションが必要不可欠だ。  
来年度までに実際に行動できるようプランを練っていきたい

参考文献 ○「ともに生きるとはたらく」著 山口光一

- 「労働統合型社会的企業の可能性」著 米沢且
- DeNA スポンサーシップPG
- 障がい者労働と支援 <http://qq3q.biz/DFZL>
- 水戸市就労支援実績一覧 <http://ur0.biz/FRKo>

# 視覚・嗅覚障害を持つ人に料理は どれだけ貢献ができるか



東京学芸大学附属国際中等教育学校 5年

## 研究の目的

親戚に視覚障害を持つ方がいて食(料理)に対する苦悩を知りこの研究を始めた。

- ・料理の心理的・物理的影響から解決策を示す。
- ・料理で健常者と同等な効果をもたらす手立てを考える。
- ・料理の改善策とその貢献度を明らかにする。

現状では料理は障害者にとって料理を正しく味わえないことがストレスとなっているが、逆にそれを解決できれば料理を利用して障害者に心理的な貢献ができるのではないか。障害者の精神的健康を保つことが目的だ。料理レシピを提案することで、障害者自身だけでなくその**家族の負担も軽減**させる。

## 研究手法

先行研究から視覚・嗅覚障害者に合う料理のポイントをまとめる。

実用的なレシピ作成、それに対する自己・他者評価。

料理を作り自身を使った実験+考察

**現時点** レシピの効果を示すための文献研究

## 先行研究から分かったこと

- ①京都光華大学酒井浩二教授「味覚判断に及ぼす視覚と嗅覚の遮断効果」⇒飲料を使った実験の結果から、視覚と嗅覚は味覚判断に同程度の影響を及ぼす。(※1)
- ②理化学研究所記憶持続シナプス分子研究チーム  
⇒情報を認識するためには最低でも二つの知覚が働いていれば判断できる。

しかし...  
課題: **実用性と解決策を示せていない**

## 試作品と料理を作る上でのポイント



- 〈色覚異常〉
- A 彩度が高い⇒判断しやすい
  - B 白色を使う
  - C 分かりにくい色を避ける

⇒残っている機能を活かす



- 〈嗅覚障害〉
- A 色彩を豊かにする⇒視覚(目)
  - B 食感を工夫する⇒触覚(舌)
  - C 五味をはっきりさせる⇒味覚

## 昨年度の振り返り

### 【成果】

妥当性のある料理レシピを視覚・嗅覚それぞれ考案した。

### 【課題】

- ・推測で結論付けていた部分がある⇒裏付けが弱い。
- ・外部連携が足りていない⇒視覚・嗅覚障害を持つ人の声を聞けていない。

## 〈嗅覚障害〉インタビュー取材

### ①昭和大学病院 耳鼻咽喉科 古田厚子先生

- ・どのような色の組み合わせが好まれるのか実験する。
- ・どの程度の障害を対象にするのか⇒一般的な割合としては急性的嗅覚障害者1/4 慢性的嗅覚障害者3/4
- ・他器官への刺激から「おいしい」という記憶を呼び起こす。



### ②副鼻腔炎の患者 Aさん(嗅覚障害者)

塩味や甘味などの五味は分かるが、うま味や香りは分からない。風味が分からないとごはん本来のおいしさを楽しめないため辛い。色彩豊かで食感もよくて冷たかったら甘味だけでも楽しめるためアイスは嬉しい。

⇒食感や温度、色彩に工夫を加える。「好み」に合わせる。

## 〈視覚障害〉実験計画

### 「透明飲料水による人の味覚認識実験」

#### 〈目的〉

透明で味付けされた飲料水を使い、視覚を遮断した状態でどれだけ味を判断できるかを実験し、味覚が人にどのように機能しているのかを知る。これでどのような味付けや味の濃さが最適なのかが分かる。

#### 〈実験方法〉

実験1 被験者の口の中を水で洗浄する(毎度)。同じ分量の透明飲料水を渡し、味の予想を記入する。

⇒予想:被験者の1/3が味を正しく判断出来ない。

実験2 実験1の過程に全て同じ対比で水で飲料水を薄め飲む。どの種類の透明飲料水であるのか味を予想する。

⇒予想:透明飲料水は香味料を多く使っているため、2/3ほどの被験者が味を正しく判断出来ない。

## 結論

現時点ではインタビューの結果から、嗅覚障害における試作品の裏付けをある程度は示せた。

## 展望

- ・嗅覚障害においては色彩に関する心理実験
- ・視覚障害においては飲料水の実験
- ・眼科の先生へのインタビュー
- 双方とも文献研究で先進事例などを調査していきたい。



# 宇宙食からみる災害食のあるべき姿



SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL



東京学芸大学附属国際中等教育学校  
Tokyo Gakugei University International Secondary School

(JAXA HPより) (カゴメ食品HPより) (三徳屋HPより)

## 研究動機

我々都民の生活は、マグニチュード7.3とも予想される大規模な首都直下地震というリスクを抱えている。このような地震が起きれば、食環境に影響が及ぶ。  
ここで災害食を備蓄しておくことが重要になるが、災害食はあまり普及しておらず、さらなる発展が必要である。

## 要旨

人間の生活に必要な不可欠である食を地震大国である日本の災害食の視点から見ていく。自然災害が多いことから日本の災害食という分野は発達してきているが、この先必要な要素はもつと増えてくるであろう。ここで、災害食に最適な保存性、栄養素などを含む宇宙食から現在の災害食を見極めて、災害食が発展すべき点を考える。また、宇宙食と災害食の違いを見極めた上で、日本の災害食の現状を明らかにし、理想的な災害食を設計する。

## 調査と課題の現状

### 宇宙食

今後の災害食に活かせる点

- ①保存期間の長さ
- ②フリーズドライ技術の発展により見た目がいい
- ③外国人向けメニュー
- ④精神面のサポート  
→ラーメンやデザートなど、多くの人に好まれるメニューも用意

### 共通点

日本食  
種類豊富  
栄養重視

### 災害食

	カゴメ食品	ファシル	イザメシ	アルファフーズ	三徳屋	PANCAN
商品名	野菜一日これ一本	しっかり非常食セット		美味しい災害食シリーズ	優しいライスインカレー	パン
保存期間	5.5年	3年	3年~5年	7年	3年	3年(缶の期限)
工夫/利点	野菜が摂れる。苦手な人もアルファ化米などと混ぜると美味しく食べられる。	お菓子からご飯まで多種多様で、レトルト食品が多く、すぐ食べられるものばかり。	2016年に日本災害食大賞1位受賞。7年備蓄できる水の他、肉じゃがや米など、日本食が多い。	レトルト食品で、水や火がなくてもそのまますぐ食べられる。普段の食事にも。	災害時避難などに役立つ繊維がたくさんあり、子供にも優しい。アレルギー27品目を使用しない。	ふわふわで美味しい。缶を開けるとすぐ食べられる。缶の包装を変えることができる。



1栄養豊富でヘルシーな災害食例

- ・水なし、火なしでもすぐ食べることができる
- ・アレルギーを持っている人への対応食品もある
- ・普段も食べられる
- ・栄養分や繊維豊富なものが多い
- ・日本食が多く、味も良い

### 改善すべき点

- ①お米は水が必要であるので、水がない・少ない時にも食べられる加工を施す
- ②見た目の改善
- ③外国人の文化宗教を考慮した食品の開発
- ④精神面のサポート
- ⑤一食当たりの値段が高いことへの配慮



防災安全協会が認定した災害食マーク

防災安全協会の人によると、防災食の基本(前提)は①保存期間②その保存期間分本当に保存されるのか、それを企業が実証しているか③栄養繊維とかたくさん入っているかなどの3点だという。

## フィールドワーク



**横浜防災フェス**  
防災安全協会が運営する災害食グランプリを開催していた。様々な災害食の試食などをする中で災害食の特徴と味を見ることができた。

**渋谷防災フェス**  
かごめ食品やイザメシなどの食品会社がそれぞれ試食やパンフレットなどを設けたブースを出していた。実際会社の方からの話も聞くことができた。



## 考察

日本内での日本人に対応した災害食の発展は進んでいるが、一般人のみに適応するものしか発達が進んでいない。特に、外国人が手軽に食べられる災害食が極めて少ない。この問題をはじめとした様々な災害食に関する問題点は、宇宙食の性質で補える部分が多々あることもわかった。また、期限が長いと逆に取り替えることを忘れて、賞味期限等が切れてしまいがちである。保存期間の長い洋食の災害食を提案すれば、たくさんの文化の食品も取り扱えるかもしれない。しかし...費用が高いから、作る企業が少ない!→解決策を考えるべきである。

- ①外国人向けや宗教上の制限がある方への食品は、ホテル等外国人が多くいる場所や教会やモスクなどの宗教施設に設置する。
- ②宇宙食で使われるフリーズドライ技術によって、保存期間を伸ばす。それを用いて作られた洋食の宇宙食をみる。
- ③ラーメンやデザートの開発→外国人も食べられて、精神面への良い影響も考えられる。

## 今後の活動の予定

- ・先行研究の筆者の中沢孝さんや既に災害食を作っている企業に連絡を取り、災害食の問題の解決について考える。
- ・市販の宇宙食や災害食を食べて、特徴を比較する。
- ・実際に私たちが災害食のレシピを計画して、作ってみる→そこから新たな災害食の改善点を見出す
- ・「世界津波の日2017高校生島サミットin沖縄」に参加し、災害食に関する発表を行う予定である。また、世界各国の高校生と交流しながら、災害についての意見交換をする。

## 参考文献

中沢孝、「宇宙食の現状と災害食への活用」『科学技術動向研究』vol.144, 2014年5-6月号, P15-23. 科学技術動向「推奨品マーク」, 一般社団法人防災安全協会<<http://hsuani-nccco.com/logo.html>> 2017年8月26日参照。  
「グッドライフ」, 三徳屋株式会社<<http://goodlifefood.com/>> 2017年8月26日参照。  
「野菜の保存食」, カゴメ食品<<http://www.kagome.co.jp/comm/jpn/hozon-sensu/>> 2017年9月3日参照  
「宇宙日本食」, JAXA <<http://jaxa.jp/spacefood/>> 2017年9月5日参照。

# 中高生における米軍基地問題に対する 関心を向上させるためのアプローチの検証



～米軍基地問題を取り入れた新たな授業計画の提案～

## 1 要旨

- ・米軍基地問題は、米軍基地に関する問題であり、沖縄県にのみならず多くの都道府県で起こっている。
- ・中高生における米軍基地問題に対する関心を、教育によって向上させる。
- ・上記の実現のため、米軍基地問題を取り入れた新たな授業計画を考案した。

## 2 米軍基地問題とは

米軍基地に関する問題。日本では、沖縄県にのみならず、多くの都道府県に配備されている。

### 自分たちの生活とのかかわりは？

例えば...

#### ①経済

基地交付金と呼ばれる給付金が支給される。

#### ②安全

オスプレイの飛行。

#### ③犯罪

米兵による犯罪が発生している。

#### ④環境

航空機の騒音は、地域住民の健康や生活に影響を及ぼしている。

## 3 研究の意義

米軍基地問題は、北朝鮮の問題とも関わる国際的な問題である。そのため、中高生にとって身近な教育を通して、米軍基地問題に関心を持つことは重要である。しかし、先行研究では、その教育が不十分であることがわかった。そこで、米軍基地問題を取り入れた授業計画を提案し、国際社会の問題にも関心を持つきっかけを作る。

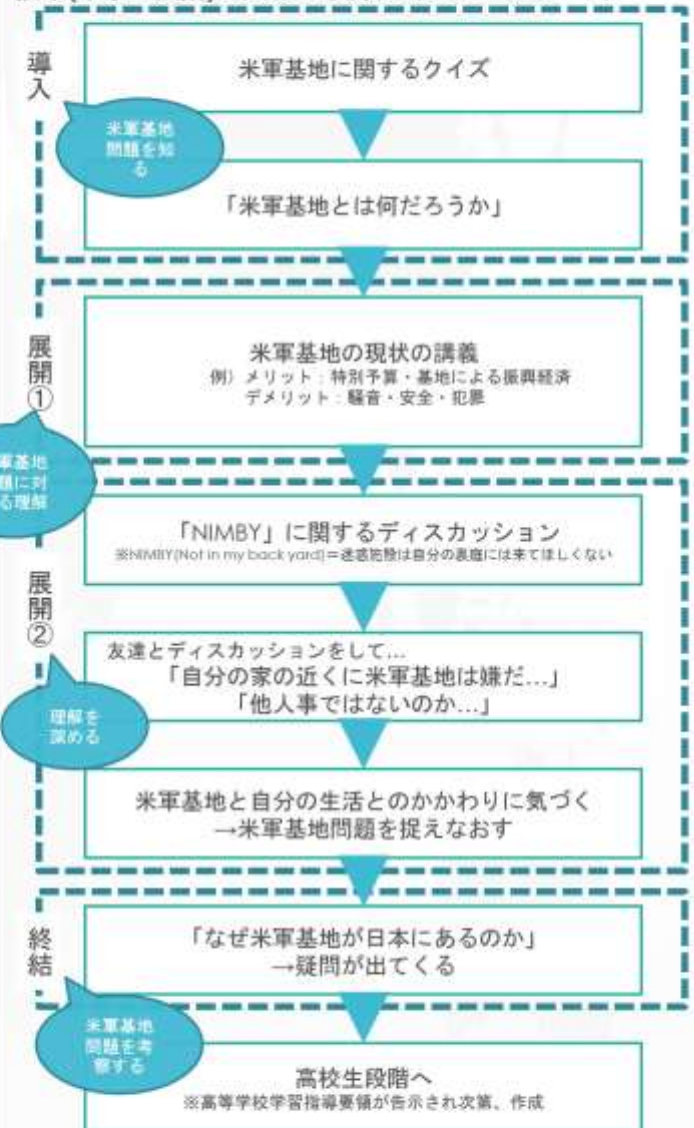
## 4 研究の流れ



## 5 授業計画

- ・授業は、平成29年3月に告示された新学習指導要領に基づいて作成。
- ・教科は中学校社会科（公民的分野）。
- ・授業コマは2時間で構成。1時間目は米軍基地の現状に関する講義、2時間目は講義内容を基にしたディスカッションを実施する。
- ・米軍基地と自分の生活とのかかわりに気づくのがねらい。

### 授業(中学生段階)の大まかな流れ(フローチャート)



## 6 研究成果と課題

- ・8月の平和教育の専門家による外部評価では、考案した授業は実現可能性が高く、普遍的（授業者の技能によって生徒の習得度に相違がない。）であるという内容であった。
- ・今後は、授業の実現に向けて、取り組んでいく。

## 7 参考文献

- ・林博史、『米軍基地の歴史（世界ネットワークの形成と展開）』、株式会社吉川弘文館、2012年
- ・角田将士、「社会科授業における「戦争と平和」へのアプローチ（単元「戦争とは何か」の開発を通して）」、『立命館平和研究第12号』、2011年、27-38頁、立命館大学国際平和ミュージアム



# 私たちが原発を選び続けることの意味とは

## ●要旨

今回は主にインタビューを通し原発問題を幅広い視点から見た。被曝や原発に関するドキュメンタリーを作る映画監督、福島原発事故当時福島の相馬高校に通っていた方、原発推進派の専門家、私たちと同様に高校生の時原発について研究していた大学生の話を聞くことができた。それから、予備していること、今まで気付いていなかったことなどを多く発見した。そして、今後研究・発信をする上で参考になるアドバイスを頂いた。私たちはこれらをすべて利用し原発の真実に迫り、私たちの手で発信活動を行っていく前提で私たちが原発を選び続けることの意味に対する答えをまとめようとした。

## ●目的

開始当初は、昨年度行ってきたインタビューや文献調査からわかったことを発信しようと考えていたが、外部で発信する場を見つけることは長期的時間を要した。また、私たち以外の多くの立場から原発に関わる方々の視点を導き自分の考えを確立してから発信するべきだと思った。そこで今回は最初の計画を変更し、主にインタビューを通して様々な立場の人の意見を聞くことにした。原発に関係するあらゆる人たちの意見を理解し、アドバイスをもらい、原発問題をより多角的に深く捉えたい。最終的にはそれを利用して自分たちが発信したい内容とその方法を決めていきたい。

## ●背景

一年生の理数探求講座「東日本大震災から学ぶ」で、2011年福島第一原子力発電所事故の実態をビデオで学び、自分たちで調べ発表する機会を持った。この講座では事故当時原子炉建屋で起こったこと、事故後の生態系への影響、原発日雇労働者の実態、事故後の隠蔽などを一年間を通して学んだ。そんな中、原発のどこがどのように危険か、また事故以外の原発を動かすこと自体による影響とそのメカニズムをより詳しく知り、現実社会に生かしたいと思うようになった。そこで昨年、私たちが原発を選び続けることの意味を多角的に調査し発信することで人々の認識を広める研究を始めた。

## ●研究

### インタビュー

#### 映像作家 6月8日

原発や被曝に関するドキュメンタリーを作り多くの人に発信し続けている映画監督。

#### インタビューから参考にしたいこと

- 賛成派の人の意見も聞くことも大事。澤田哲夫さん、田中俊一さんなどの話しは参考になる
- 福島出身の若い人や現在の福島の高校生と交流するとメディアでは報道されていない事故当時の実態や彼らの原発問題に対する考えがわかる
- 外国の方もおまねきして交流会を行うこともできる。YMCAなどに企画書を提出してスポンサーになってもらうことができる。

#### 相馬高校卒業生 7月23日

事故当時福島県の相馬高校に通っており、事故後は放送部としてその実態を伝えてきた。現在は東京の大学に通う大学生。今回出会ったのは相馬高校放送部の過去の作品の上映会であった。この上映会で上映された作品には心動かされた。

#### 上映会からわかったこと

上映会では「今、私たちが伝えたいこと（仮）」という演劇を観た。これは相馬高校の高校生が自分たちで福島の事故に対する思いを発信している。彼女たちは将来への不安、話しを聞いてくれない大人への怒りなどを自分たちができる全力の演技で伝えていた。私たちはこれを見て、自分と同じ年の高校生でもここまで大きな影響を与えることができることに気づいた。私たちもこれくらいの影響力を持った発信方法を見つけたい。また、原発の人への影響をより理解した上で将来のエネルギー選択をしたい。

#### インタビューからわかったこと

- 福島で特に原発の教育は受けていない。今も具体的な教育は行われていない。
- 事故当時は原発事故より余震の方が怖くて気になっていた。
- メディアで報道されている「福島がんばれ！」というメッセージは違う気がする。家に戻れない人や家族を失った人など復興したくても復興できない人がいる。

#### 研究者 8月1日、8月25日

東京工業大学原子炉工学研究所の助教。原子力安全などについて研究してきた科学者。原発の推進派。

#### インタビューからわかったこと

太陽光や風力は理想的だが今の現状だと発電量が足りない。その低を補うのは原発であるべき。また、原発は石炭や化石燃料をつかった発電サイクルと比べ二酸化炭素を出さない。そして、化石燃料などを大量に輸入する必要もないため、膨大なお金がかからない。原発は温暖化を進めない。そして資源が少ない日本にとって有力なツールになる。

#### 原発問題について取材した元・高校生 8月19日

高校生の時新聞委員会で作成した原発について研究。その内容を「高校生記者が見た、原発・ジェンダー・ゆとり教育」という本にまとめている。

#### インタビューから参考にしたいこと

- 研究の中心になるような問を立てるといい。今まで調査してきた気になったことに注目すると研究もまとまりやすくなる。
- 実際に福島に行ってみるのも価値がある。その場の雰囲気を感じて細かいところを見ても事故の現状をより身近に感じることができる。また、福島に住んでいる人の話を聞くのも参考になる。
- 自分が加害者になっているかもしれないという意識もちゃんと持つべき。原発は他人の問題ではない。

## ●研究

### アンケート

インタビューにもお答えいただいた映画監督の方に去年、私たちの学年全体にご講演をいただいた。その際、講演の事前と事後アンケートを生徒に回答してもらった。その一つが「原発について興味はありますか」という質問だ。原発問題の解決のためには、より多くの人々が関心を持ってもらうことが重要だと思ったから、原発にとっても関心があると答えた人の割合は7%から32%と大きく増えた。全体的に原発に興味を持つ人が増えたことがわかる。将来のエネルギー選択として自然エネルギーより原発が現実的だと考える割合は68%から34%に減った。生徒の感想には以下のようなものが見られた。鎌仲さんの伝えてくださった実態。特に事故の危険以外の再処理の問題などを初めて知ったという声も多く、それを知ったことでどちらかといえば原発反対派の意見が増えたのだと考えられる。私たちが普段手に入りにくい情報が得られたことがわかった。

#### <生徒の感想>

日本は様々なエネルギー問題を抱え、他国と比べて少し出遅れているところがある。そのようなことを今回初めて知った。

廃棄物をどう処理しているのかの問題。さらにその処理方法が与える影響を知った。

テレビやメディアの情報が都合の良いものでできていることがわかった。

未来のために自分は原子力発電についてどう考えるべきか考えるきっかけになった。これからもっと考えていきたいと思った。



## ●結論

福島県立相馬高校放送部の上映会では、今まで気づけなかった福島県の高校生の心の叫びに気がついた。このような福島県の実態を一言で片付けることは原発問題から目をそらすことだ。一方原発がなぜ必要とされてきたのか、これから必要なかを考えてみないことも持続可能性を考えない目先のエネルギー選択になってしまう。「人」を中心に原発問題に懸念、事故の当事者の荒さんの声、日本の将来を考えて推進している澤田さんの意見、若い世代として社会全体的に原発問題を捉える比呂さんの考え方を聞いた上で次のように考えた。一人一人の人が生きていく限り、事情により一部の人がどれだけひどいことが起きても致し方ないと割り切るにはある意味での冷静さが必要だ。多くの人が公平な判断によりエネルギーを選ぶようになるために私はこれからも、原発問題に目を向け、周りの人や、日本、世界に発信したい。

## ●今後の展望

昨年度は多くの文献調査やインタビューを通して情報収集をした。原発の基礎知識から様々な意見も聞いたので、次は自分たちの意見をこれらの情報をもとに考え、若者と意見を交換する機会を作りたい。今後は自分たちの考えや原発の実態などを発信していきたい。発信の際、最初は外部の人と連携したい。原発問題に関して動いてきた方々と一緒に活動すればさらに影響力があると考えたからだ。また、自分たちの研究に役立つ新たな情報や発信の方法も様々な人と活動していくなかで知ることができる。そして、事前事後アンケートにより、より良い発信方法を探る研究を行いたい。

## ●参考文献

- 澤田哲生、『目で見て分かる！放射線と原発』、双葉社、2012年。
- 高校新聞委員会、『高校生記者が見た、原発・ジェンダー・ゆとり教育』、現代人文社、2014年。
- 映画作家へのインタビュー、2017年6月8日
- 福島県立相馬高校出身大学生へのインタビュー、2017年7月23日
- 東京工業大学原子炉工学研究所助教へのインタビュー、2017年8月1日、2017年8月25日
- 大学生へのインタビュー、2017年8月19日

## ●謝辞

今回の研究を進めるにあたって情報やアドバイスを提供していただいたみなさま、取材に丁寧に応じてくださったみなさま、先行研究として参考にさせていただいた文献の著者の方を、全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

# Programming Of the Kids By the Kids For the Kids.

○昨年度の研究

効率的・分かりやすい・効果的なワークショップの研究→要素を絞る

2020年までの初等教育における

プログラミング教育の必修化が決定

「1対1」「同じ目線に立つ」「答えを最初に教えない」「自由時間」「SHOW&TELL」

→教育界におけるプログラミング教育に対する研究にあまり進展がない  
→教員養成、授業計画など様々な課題が残っている



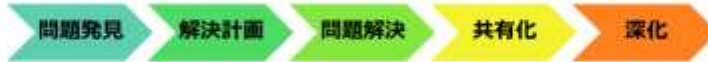
⇒実際の初等教育における授業への導入は困難

初等教育でのプログラミング教育における理想的な「授業プラン(1単元)」の作成！！

社会的価値	この研究のゴールは初等教育における理想的なプログラミング教育の授業プラン作成である。この初等教育に重点を置き、より良いプログラミング教育の在り方について研究を進めていくことにより、2020年までに必修化されるプログラミング教育の授業を考案している教育界に貢献することができる。また、私たちが理想的なプログラミング教育を明らかにすることができれば、3年後から教育を受ける子どもたちにも役立つと考える。
研究方法	It is ITの活動を対象に研究を進める。 ①初等教育の授業として成立するための条件を調査 ②条件を満たしたワークショップ(授業)作り ③アンケートの実施や振り返り・考察→試行錯誤 ④授業プランの考案、評価、改善 ⑤作成した授業プランで小学校で授業実践 ⑥改善・修正を経て最終案を決定する

## ～先行研究～

問題解決型授業の基本的な流れ



- ・問題解決型授業とは・・・問題の解決過程を重視する指導
- ・「問題」の条件 ①生徒の学習意欲を引き出すことのできる問題  
②問題の解決過程で新たな指導内容を身につけさせることのできる問題
- ・問題解決型授業の必要性 → 問題を解く意義が感じられる → 生徒の積極性が養われる！

## It is ITとは？

中学1年の頃立ち上げた、子どもに対してプログラミングワークショップを行っている有志の団体。「子ども子どもによる子どものためのプログラミングワークショップ」という考えを元に、外部の方と連携を組みながら様々なワークショップの開催や手助けをしている。

## ～研究成果～

It is ITの授業の様子



### ○授業における前提条件

- ☑ 1授業45分 ☑ パソコンの設備
- ☑ 興味の有無 ☑ 評価可能な学習
- ☑ 教師1人：生徒多数

### ○授業において意識する点

- ・できるだけ日常と結びつける
- ・個人・グループで自ら解決する授業
- ・みんなのためのプログラミング授業

### ○授業単元プラン(案)

時間目	学習内容	学習活動	学習効果
1	導入：日常のゲーム→自分でも作成可能 画面上のスプライトの操作の基本	インベーダーゲームの作成 ①Scratchの基本 ②スプライトを動かす	Scratchの基本が身につく、プログラミングを身近に感じられる
2	スプライトの見た目、音、背景、ペンなどの機能を学ぶ	スプライトに色をつけたり背景を変えたりする	問題発見力、オリジナリティ
3	乱数を学ぶ	宇宙人がランダムに降りてくるようにする	探究心・試行錯誤、論理的思考力
4	変数を学ぶ	ゲームにスコアをつける	新しい概念の身につけ、問題解決力
5	自分の作品を作る	自分の作品を作る	創造力、コミュニケーション力
6	作品の仕上げ SHOW&TELL 振り返り	作品の仕上げ SHOW&TELL →お互いに評価 振り返り	創造力、表現力、コミュニケーション力

### <プラン導入可能な機材>



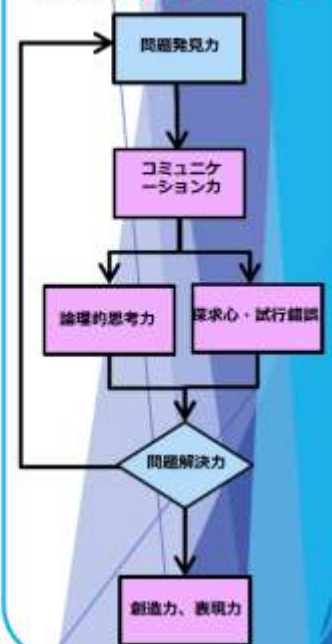
### <利点>

- ・段階を踏んだ授業にしている
- ・Scratchの要素を多く網羅している
- ・生徒の創造性を養うことができる

### <改善点>

- ・プログラミングに興味を持っていない生徒に対する工夫
- ・理想的と判断できる明確な根拠がない
- ・生徒の理解度の確認方法

## ～プログラミングで身につく能力の構造～



## ～今後の計画～

- 9月 授業プランの評価、改善
- 10月 条件を満たした授業作り
- 11月～ 作成したプランで小学校で授業実践、振り返り  
→改善・修正後、再度授業実践
- 12月末 最終案決定、論文作成

## ～参考文献～

- ・相馬一彦、『数学科「問題解決の授業」』、明治図書、1997年
- ・秋田喜代美、『学びの心理学 - 授業をデザインする』、放送大学、2014年
- ・「問題解決能力を向上させる指導-問題解決的な学習の工夫-」、宮城県総合教育センター。  
<[http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/longres/H15\\_A/pdf/gkgb28.pdf](http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/longres/H15_A/pdf/gkgb28.pdf)>  
2017年8月30日参照。

子どもに教える ⇒ 子どもと共に解決し、共に学ぶ！！



# 現代の日本の性に対する寛容性を 歴史的観点から探る

東京学芸大学附属国際中等教育学校



**要旨** 日本人はLGBTQを含む「性」にどれほど寛容であるのか、歴史を振り返りながらその価値観が今に至った過程を検証した。本来日本は寛容な文化をもつが、明治維新や大正・昭和期の戦争を経た現在、LGBTQの権利保障など解決すべき問題は多い。日本人が自らのルーツを知り、性に対する価値観が形成された経緯を知ること、また同時に法の成立を促進していくことで日本はLGBTQの人々が住みやすい社会になると考える。

## どうして性なのか | 研究動機

高校1年生から1年間留学したアメリカ・オレゴン州のホストファミリーがLGBTQの支援活動に積極的だったことを機に、LGBTQに興味をもつようになった。ファミリーと過ごした一年間は帰国後日本のLGBTQ理解の促進、日本人の価値観がどのように形成されてきたのかを研究したいという原動力となった。

## 日本でLGBTQへの理解を広めるために | 研究目的・方法

1. 資料を通して日本の歴史を振り返り、「性」やLGBTQの概念がどのように存在してきたのかを明らかにする。
2. 性に対して寛容な日本人の素地を明らかにする。
3. どのような過程で今の状況に至ったのかを検証する。
4. これからの日本でLGBTQへの理解がさらに深まる方法を考える。

## 本来は性に対して寛容な日本 | 研究結果

### I. 寛容期 | 江戸時代まで

- ↓ 男女の社会的地位に差がなかった日本社会
- ↓ 転換期としての徳川幕府
- ↓ 政治手段としての同性愛  
一 男色文化の広まり

#### 同性愛と異性愛が共存した社会

### II. 混乱期：『変態性欲』の誕生 | 明治時代

- ↓ 存在し続けた同性愛
- ↓ 逆行する社会風潮による混乱
- ↓ 病理化された同性愛
- ↓ 「先天的」と「後天的」な同性愛者の誕生

#### 異性愛と同性愛の区別が生まれた社会

### III. 戦争が及ぼした影響 | 大正・昭和

- ↓ 「男らしさ」と「女らしさ」の形成
- ↓ 「女々しさ」への脅威にさらされる男性同性愛者
- ↓ 「男らしさ」に重ね合わされた道徳
- ↓ 戦争の激化：「男」の身体は国家のものに
- 同時に構築されたホモソーシャルな社会構造：
  - 「兄弟」は国家のために戦う尊い連帯に
  - 軍学校・軍隊内で「寛容」された同性愛

#### 「非男性」と思われてはならないという強迫観念と、男性同性愛者への嫌悪の表出

### IV. 文化的寛容と社会的寛容の矛盾 | 現代

- 日本の人口の7.6%がLGBT(注1)
- 厚生労働省【よりそいホットライン】に寄せられるセクシュアリティに関する相談件数：1日1500件以上(注2)
- 6倍に上る自殺率(注3)
- 同性パートナーシップを認める自治体の増加

#### 歩みだしている日本と

#### 残る法的課題

#### 自治体の同性パートナーシップ制度



#### 日本の法制度と社会制度

##### 日本国憲法 第24条1項

「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基礎として…」

- ① 憲法は異性婚のみを認める趣旨である  
一 憲法改正が必要
- ② 制定当時は異性婚のみを前提として作られたが同性婚を禁止する趣旨ではない  
一 法律を制定し認めることは可能

#### 日本に必要なこと：

- 包括的な反差別法の制定
- 同性パートナーシップの法的保護
- ヘイトスピーチ規制 → ただし厳格な要件設定と検証可能な運用のもと

## 影響を受けやすい性の価値観 | 研究結果

- 長い間性に対して寛容な社会を築いてきた日本の姿
- 「法」の影響
- 性の価値観は、時代背景など環境に大きく左右される
- 性的指向もジェンダー構築と深くかかわっている

## 未来へつなぐ | 今後の展望

- 男色文化が人々の生活に及ぼした影響
- 「変態性欲」と病理化された同性愛 → 日本ではない地域を対象に検証：日本で「変態性欲」が広まった過程
- 研究結果を踏まえた法的課題への具体的なアプローチを考案



# The Effect of Bilingualism on Cognitive Thinking

## Purpose

This research is on how bilingualism affects cognitive thinking for high school students. This is being conducted in order to figure out the effectiveness of bilingualism on education. Through this research, I have analyzed the effect of bilingualism on the brain and have deduced how it could change the study patterns of students.

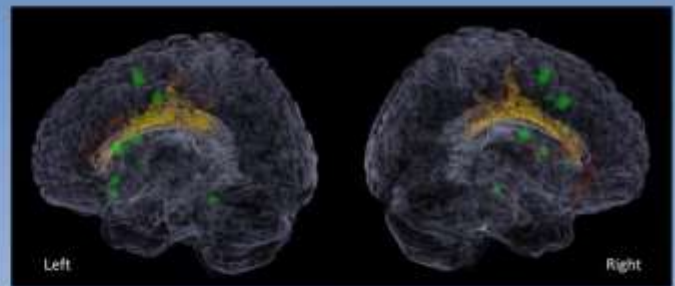
## Cognitive Thinking Process



<http://www.learningrx.com/wp-content/uploads/2016/02/learningrx-scientific-model-545px.jpg>

## Research

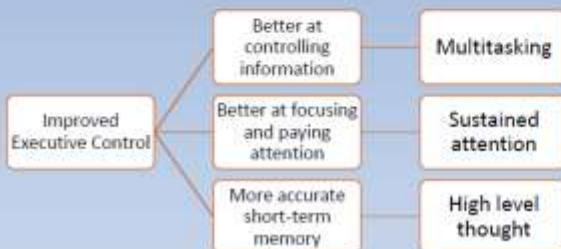
The research was conducted by gathering various data from previous research and analyzing them. These research were done by done by professional researchers of psychology and neurology from around the world. Therefore, all the information are from primary sources and



<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/coreqg/tileshop/tileshop.fcgi?PMC3&id=143318&p=30&n=1&o=3>

## Result

Research by Dr. Akira Miyake, Professor of Psychology at the University of Colorado



These parts of the brain are activated when bilinguals are switching between languages. Coincidentally, these brain regions are also used for cognitive control. This implies that same mechanisms may be used by the brain for both cognitive thinking and bilingual switching. This might explain the superior performance of bilinguals compared to monolinguals on nonverbal conflict tasks. Many researchers have stated that bilingual processing may lead to changing brain networks and improving them.

"Executive control is central to academic achievement; in turn, academic achievement is a significant factor of long term health and well-being."

-Dr. John R Best

"Relations between Executive Function and Academic Achievement from Ages 5 to 17 in a Large, Representative National Sample" (2011)

## Thinking a Step Further

From the result from this research, it can be concluded that bilingualism lead to improvement in multitasking, sustained attention, and high level thought. This can also bring about improvement of education for high school students. For example, more accurate short-term memory can give rise to better performance in language arts when trying to analyze the high level text that is difficult to understand. Although this has not been proven, further research will be conducted on the bilingual students of TGUISS in order to obtain accurate information on how bilingualism can affect high school students' school lives and education. It can be predicted that this personal research will be supportive of my opinion.

## Conclusion

From various sources, it was confirmed that bilingualism is more beneficial than harmful for education. This information should be spread so that more people would be able to understand how bilingualism can change their lives. Having a better education means having a better chance at life. This can help to change the world into a better place by having smarter people who can connect with others through different languages. Different countries and cultures would be able to communicate with each other and help understand each other. I think this can be considered as taking one step close to world peace.

## Citation

<http://www.learningrx.com/define-cognitive-thinking-faq.htm>  
[http://www.multilingualchildren.org/getting\\_started/pro\\_con.html](http://www.multilingualchildren.org/getting_started/pro_con.html)  
<http://www.asha.org/public/speech/development/The-Advantages-of-Being-Bilingual/>  
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC3322418/>

「貧困ポルノ」…初めてテレビで聞いたこの言葉が、  
私たちがカンボジアについて考え始めたきっかけでした。

ー カンボジアは本当に悲しい国なのでしょうか？

ー 一方的な支援は彼らのためになっているのでしょうか？

支援は確かに現地の問題解決につながります。しかしそれはあくまで表面的なもので根本の解決には至りません。私たちが考えたのは「カンボジア人は支援に頼りすぎているのではないか」というポイントでした。本当の発展に必要なのは何よりも内部からの行動力と発信力なのです。

## 活動

これまで私たちはカンボジアについての調査をネットや本で行い、それを元にカンボジアの課題点を絞り、**研究方針**を決めた。夏にはその方針を元に、メンバーのカビーがUNESCO主催のカンボジアスタディツアーに参加し、現地での調査をすることでリアルな分析を行った。

## 貧困ポルノって？

貧困ポルノとは「**貧困**」や「**飢餓**」などといったイメージを誇張して、**流布**させることを指す。

## 改善策

これを解決するため、私たちが考えたのが、**農林従業者**と都市部の**マーケット**との間に**仲介業者**を挟む案だ。以下はカンボジアの輸出入で扱われる食品の割合を表したデータである（左から順に輸出・輸入）。ここから分かる様にカンボジアは農業大国である反面、そのパラエティーには限りがあるため、そのほかの多くは輸入に頼っている。これより、国内での**生産が可能な製品**の輸入はストップをかけ、カンボジア全体に仲介を挟むことで、手数料などによる**売値の格差**を是正した、完全な効率化を行うことができる。



## 展望

1. 今後は、スタディツアーで学んだことを元に、仲介業者の計画を立てるためより詳細な輸出入や経営の**データ**を手に入れるべく、国内の**カンボジア大使館**や、ヤマト運輸のような**配送業者**へのインタビューを行う予定である。

2. 経済成長に注目が集まる国であやふやになりがちなのが**環境面への配慮**だ。四日市ぜんそくや水俣病など、過去に私たちは何度も同じ過ちを繰り返してきた。現在日本の無償支援などを通じた工場の浄水設備などの整備は始まっているが、企業だけでなく民間の**一般認識**としても、「教育」や「募金」だけでなく、経済成長の土台作りである**環境面の整備**が必要不可欠であることを、国内外ともに意識作の必要性がある。



# #EAT.GLOCALLY



～若者における異文化理解への新しいアプローチの提唱～

## 要旨

我々は、国内における「若者の内向き志向」という社会問題に着目し、より多くの同世代の学生が異文化に対し興味をもてるようなアプローチを提唱する。これを可能にするために、食事を「グローバル化する」という概念を用いる。またフィールドワークでの聞き取り調査を通じ、より実社会に因果性が深い情報を聞き出すことが出来た。この経験を考察し若者に直接的に発信するためウェブサイト立ち上げ、また活動の様子を専用SNSアカウントに投稿した。結果、グローカリゼーションは地域文化と異文化の位置関係によってその必要性・度合いも大きく変化するが、異文化を紹介するという点では優れた効果が見られることが分かった。これにより、「グローバル」というテーマを異文化理解のアプローチの一つとして有効に活用することは可能であることが分かった。

## 定義

本研究では、「グローカリゼーション」という単語を「グローバリゼーションとローカリゼーションの相互作用によって生まれる現象である(上杉, 2011)」と定義する。グローバルなもの、ローカルなもの、グローカルなもの、という関係性、という意味。

## 背景・目的

我が国における社会問題の中で、「若者の内向き志向」というものがある。日本の若者は海外に対する関心が少なく、国内にとどまることを好む、ということである。これは「『異文化』ということの大層なことと捉え、その壁の前で構えてしまう」ことが要因とされる(川那部, 2006)。また廣岡(2008)は海外渡航者数に注目し、「日本人全体の出国率は、13%台である。これは、諸外国と比較すると相対的に低い」と指摘する。世界がグローバル化の渦中にある中、日本人の若者には消極さが目立ってしまい、世界の流れから取り残されることとなる。

本研究では、異文化理解を促進する初期段階の働きをするアプローチを提唱する。このアプローチでは食事の文化的側面を用い、「グローバルな食」というテーマを設定した。グローバルとは、グローバリゼーションとローカリゼーションの相互作用によって生まれる現象である(上杉, 2011)。食べ物がグローバル化(異文化の食べ物と、自地域の食べ物のハイブリッド化)することにより、異文化の食事が土着化し、より親しみやすいものとなる。結果、異文化を「気軽なもの」として認識し、内向き志向が改善されると考える。

保護主義的な国際風潮も存在する中で、若者の異文化に対する好意的な印象が薄く、彼らの自発的な興味を促進したい。この導きが、我々の研究の目的である。

## 行動

まず、関連する先行研究を検索し、本研究におけるグローカリゼーションというテーマを定義・解釈し、また研究を元にグローバル事業の活用例を模索した。文献調査ではグローカリティとビジネス形態、またグローカリゼーションが社会に与える影響について考えた。これを踏まえ、本研究の目的と方向性を決定した。

次に、国内におけるグローカリティの実態を調べるため、フィールドワークを計7回行った。

3月7日	西友中村橋店にてハーゲンダッツ華もちを美食調査
3月24日	アフリカンフェスタ横浜にて聞き取り調査
5月3日	ADB Yokohama Annual Meetingにて参加者に聞き取り調査
5月11日	Taco Bell 渋谷道玄坂店にて株式会社アスラポートダイニングの方を聞き取り調査
6月8日	さくらサイエンスで知り合ったR氏・A氏を聞き取り調査
7月23日	明治大学教授を聞き取り調査
7月24日	インドカレーレストランマサラ富士見台店にて聞き取り調査
7月27日	マクドナルド大泉学園店にて夏カレーロコモコバーガーを美食調査。

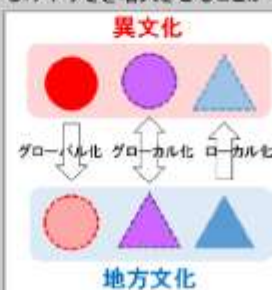


研究を同世代の若者へ発信し、自発的な異文化理解を促進するため、フィールドワークの様子などを投稿するInstagram、LINE@のアカウントを作成した。また研究内容、フィールドワークをまとめたウェブサイトも作成。SNS上で一括検索を可能にするため、ハッシュタグ機能を活用し、「#eat.glocally」と「#グローバルを食べる」と毎投稿に付け加えた。

## 結果、考察

現段階での調査結果では、食を通じた異文化理解は十分可能であり、また情報テクノロジーを活用した情報公開も効果的とみられる。

聞き取り調査では、A氏が「文化における食品の個性はその文化そのものを映し出している(和訳)」と言い、ローカルをベースにすることで親しみやすさを増大させることができる。グローバル化を图示すると、



左図のようになると考える。グローバル・ローカル化はそれぞれ一方的な方向性へ影響を及ぼすが、グローバル化はその両方の原形をとどめつつ、互いの良さを掛け合わせた結果生まれる依存関係性である。

しかし注意しなければならないのが、その相互関係のバランスだ。Taco Bellの調査では、日本の顧客向けに独自開発した「シュリンプ&アボカドフリー」は売り上げが伸びなかったという。アメリカらしさを

求め来店する客として、日本文化との融合は不必要であり、結果として需要も少ない。馴染みを持ってもらおうと工夫を重ねると、かえって興味を持ってもらえなくなる可能性が生まれる。関心を引くためには、直接的に関心を持ってもらえるような仕掛けを意図的に設置するべきだ。

Instagramを利用した活動紹介では、フォロワーによる「いいね!」数を最大で39個獲得し、その情報到達度は非常に高く、異文化への興味を促進するきっかけになっていると強く確信できている(右図参照)。またフォロワーによる画像へのコメントも複数あり、その関心の高さがうかがえる。同世代の学生にとって身近な距離で接することができ、異文化理解への意欲としての役割が大いに期待できる。



ハッシュタグの活用も効果が見られ、Google.comで「#eatglocally」と検索すると、32件の結果が表示される。ハッシュタグの利用により、ピンポイントで検索することが可能となり、テーマに関心のある人が深く掘り下げられる。

グローカリゼーションをどう用いて異文化理解を促進させるか。それは、その土地における地方文化と異文化の距離にある。距離が近い場合、地域文化を大々的に盛り込む必要性はないし、距離が遠ければ、異文化を紹介するためのクッション材として使うなど、その度合いは状況に応じて変化するべきだと考える。

## これからのゴール

今まで多くの実地調査を行ってきたが、その調査対象に偏りが存在すると認識している。それは、大人(分野専門の知識人)ばかりに意見を聞き、本来調査しなければならない「若者」から遠ざかっていることだ。そのため、フィールドワークへ出向き、より多くの「若い」声を聞きたい。具体的には、同世代の学生が異文化に対しどのような姿勢を持っているか、そして同世代が異文化への関心を持つために必要な要素とは何か、という問いを立て意見を集めたい。

## 参考文献

上杉富之編「グローカリゼーションと越境」, pp.1~20, 成城大学 成城大学民俗学研究所グローバル研究センター, 2011年  
川那部和恵「異文化理解教育における実践的アプローチの可能性」, 教育実践総合センター研究紀要, pp.53~60, 奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター, 2006年  
廣岡裕一「若者の海外旅行に関する意識調査」, 分析結果の発表, IATA国際観光会議・世界旅行博2006タウンミーティング「若者の海外旅行離れ」, 2006年。



## 背景

### 日本

「男女平等ランキング」・「子育てのしやすい国ランキング」で下位

待機児童問題

有給取得率が低い

仕事と育児の両立がしにくい

### 北欧

「男女平等ランキング」・「子育てのしやすい国ランキング」で上位

ネウボラなどのサポート団体や国が数多く費用を負担

有給取得率が高い

仕事と育児の両立がしやすい

## 要旨・目的

北欧のように子育てと仕事の両立がしやすい国に一步近づくために、北欧を参考にして、まず国全体が子育てに対してどのような考え方であるべきなのか、現在の日本はどのような点で両立しにくいのかについて考える。

## 調査よりわかったこと

### ① 北欧はなぜ仕事と子育ての両立がしやすい？

#### ① 子育ての仕方

スウェーデンは100%共働きで、1歳~1歳半になると子供を一緒に保育園や公的保育ママに預ける。産休は390日間で子供が1歳半になると切れる。また、産休時に給料の80%がもらえる。

#### ① ネウボラ

スウェーデン産前産後から就学前までの子供と母親の健康と心身のサポート(これには日本の厚生労働省も注目している)

#### ② フィンランドの保育制度

母親の労働有罪にかかわらず誰もが保育園に入れることができるという権利がある。24時間の夜間保育や安く、良質なサービス

#### ② スウェーデンの保育園

保育ママの最低規定数が日本の3倍~5倍でかなりの人数がいる。

もたら共働きという理念があり、それが当たり前である。また、その分保育園の需要も高く、設備もしっかりしている。近年共働きが増加している日本ではまだ共働きという働き方が完全に定着しておらず、共働きするための環境が整っていないのではないかと。

心身ともに安心して子育てができるように国や自治体、企業のサポートが手厚い。誰もが平等に安心して子育てができるようになっている。

### ② 日本ではなぜ仕事と子育ての両立がしにくい？

#### 原因:

日本に合った男性が社会・子育て後に活用される理由



厚生労働省のデータに基づいて作成した

#### 両立が難しかった具体的な理由



厚生労働省のデータに基づいて作成した

#### なぜ両立は日本でしにくいのか



出典: 東洋経済新報社

#### 社会保障給付



その他は家族支援、再就職支援や介護手厚を含む。

山崎加津子さんの「スウェーデンの社会保障制度に学ぶ-社会保障制度の持続性こそ成長戦略の基盤-」に基づいて作成した

### どんな事を日本の社会に生かせようか

- 働किながら育児をするということへの社会的な理解
- 保育制度(ひとまず待機児童の解消のヒントを北欧から学ぶ)
  - なぜこんなに多くの保育士を雇うことができるのか
- 企業のサポートや理解

### 注目した両立しづらい原因

- 職場が両立しやすい環境ではなかった
- 長時間労働によって時間が無くなる
- 男性の貢献しやすい環境が整っていない
- 国の援助が足りない

これまでに挙げた子育てと仕事を両立しやすい社会を作るための解決策を国全体として実行するとする。では、なぜ北欧の国々はこんなに手厚い手当を国民一人ひとりにできているのか、理由として、北欧の国の規模が違うと、北欧でできて日本としてできることは少ないと思う。そこで企業に両立しやすい社会をつくる取り組みをしてみたいのではないかと。例えば両立しやすい社内の雰囲気づくりや育児休暇や有給休暇の消化推奨などである。

国	人口
日本	12700万人
フィンランド	52.4万人
ノルウェー	46.2万人
スウェーデン	90.4万人
デンマーク	54.5万人
アイスランド	33万人

The World Bankのデータに基づいて作成した表 (8月13日2017年の時点)

### 結果・今後の研究

これからの研究では企業が得意な取り組みを、現在、企業が行っている子育てに関する取り組みがふさわしいのか、社員は効果的だと思っているのかなどを参考にしながら考えていく。また、その際北欧が国として行っている取り組み(自助成金やネウボラ、産休など)を参考にしながら練っていく。

#### 育児

産休を取れる期間の長さ調や、その期間中の会社との関わり方。そして会社側の配慮(特に復帰する時)などは改善できる点があるのではないかと。日本と北欧では社会、そして国全体が違うため企業にとって育児などの配慮に時間をかけたりするのは、休み期間などを調整すると仕事などに大きく影響してしまうため、難しいという場合が多いかと思われる。そのため育児や産休に関して、親の希望がなるべく通りやすいスケジュールなどを調整できるようにするのはやである社員だけでなく他の社員も快適な上、会社に取ってもメリットのある、そのような環境づくりをしていければいいなと思う。

#### 任務時間

日本の働いている人の多くが過労する時間はフィンランドの午後4時と比べて、午後6時(多くの人は残業)ととても長くなっている。帰宅時間が遅ければ遅いほど、保育園から子供をピックアップする時間が遅くなったり、そもそも預ける保育園があるのかを探したりする時間が短くなるのに繋がると、家での子供の時間も急激に減ってしまう。仕事と育児が難しかった理由でも過半数を占めており、任務時間が長いという点もこれからの研究で挙げられていた。そのため、任務時間の調節を可能にするなどが改善点としてあげられる。

### 企業側が環境を変えていくことが大事

#### 給料

産休や育児と同じようなことだが、その休んでいる期間の間に親がもらえる給料はとても重要なポイントでもある。お給料はやはり子育てにあたって以前以上に大切になる。お給料はすべての社員にとって大切なため社員に公平に渡さなければいけない。そこで会社は親である社員と親でない社員のお給料の差であったり、平等性について考える必要がある。会社によって基準や優先順位などは違ってくると思うが、適した対応の仕方を取ることができそうであれば社員の満足度も向上し、職場でのパフォーマンスも良くなるのに繋がるのではないかと。

#### 対応・接し方

親のサポートとして会社員や企業全体が、温かい雰囲気やサポートでき、親となった社員が居心地良く感じられる職場にできるように、まずは親ではない社員がそのような対応を取れるほどの余裕と理解があることが大切になってくる。そのためにも、会社側が育児や他の育児サポートでは公平な対応を取る必要がある。親の方が有利であったり、育児を取ったことによる仕事の振り分けが少し悪くなったなどということも他の社員に不快感を与えてしまうのはなるべく避けたい。会社はこれからのような対応、工夫やサポートをしていけば親の社員に取っても他の社員に取っても快適に働ける環境になるだろう。

参考文献: 1. 男女平等ランキング「スウェーデン」(2017年) 2. 男女平等ランキング「フィンランド」(2017年) 3. 男女平等ランキング「ノルウェー」(2017年) 4. 男女平等ランキング「デンマーク」(2017年) 5. 男女平等ランキング「アイスランド」(2017年) 6. 男女平等ランキング「日本」(2017年) 7. 男女平等ランキング「スウェーデン」(2017年) 8. 男女平等ランキング「フィンランド」(2017年) 9. 男女平等ランキング「ノルウェー」(2017年) 10. 男女平等ランキング「デンマーク」(2017年) 11. 男女平等ランキング「アイスランド」(2017年) 12. 男女平等ランキング「日本」(2017年)